

令和5年度第2回羽島市男女共同参画懇話会会議要旨

日 時	令和6年2月7日（水）14時00分～15時30分
場 所	羽島市役所 4階 第1委員会室
出席者	<p>（委員）出席者8名 北村直子会長、安藤理加副会長、篠田美代子委員、山田小百合委員、岩越トミノ委員、南谷東子委員、加藤隆康委員、野村美奈委員</p> <p>（事務局）出席者9名 松井市長、伊藤市民協働部長、北垣市民協働課専門官、牧野市民協働課長、松尾同課主査、藤後同課主事、加藤子ども家庭センター所長、高橋学校教育課長、浅野危機管理課長</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 市長あいさつ</p> <p>4 報告事項 （1）次期プラン策定に係る「市民意識調査」の結果報告 事務局より資料に基づき説明</p> <p>【意見・質疑】</p> <p>（委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能登半島地震の避難所で女性の生活対応に苦慮しているという話を聞き、避難所となる各施設における具体的な対応の検討が必要であると感じている。 ・避難所運営委員会や自治会などと情報共有できる場を設けていただきたい。 <p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討させていただく。 <p>（委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20代や30代の若年層の回答率が低くなっているが、回答率を上げる方法を考えているのか。 <p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページや広報紙等を通じて、継続して男女共同参画に関する啓発活動を行っていく。 <p>（委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性犯罪被害防止のための対策について、学校では、SNS等の情

報モラルに関する指導が必要であると認識している。

- ・学習の利便性を図るために子ども一人一人にタブレット端末を配付しているが、インターネットに繋がるため、家庭内での取扱いについては指導が難しく、学校と家庭との連携や家庭でのルールを決めることが大切である。

(委員)

- ・保護者に対して指導は行っているのか。

(委員)

- ・情報モラル教育は行っているが、家庭内での指導方法は様々であるため、学校と家庭での連携が求められる。

(委員)

- ・犯罪防止のための意識づけは必要と考えるが、性犯罪に関する啓蒙活動は行っているのか。

(事務局)

- ・学校現場においては、現状、いじめを含めた子ども同士でのトラブル等の報告はない。
- ・スクールソーシャルワーカーの活動等で、性犯罪防止も含めた対応を行っている。

(委員)

- ・羽島市で子連れ出勤の制度はあるのか。

(事務局)

- ・羽島市民病院では保育所を設け、子連れ出勤を可能としている。
- ・市役所での導入については、他市町村の事例を調査し、職員のニーズ等を踏まえたうえで検討する。

(委員)

- ・若年層の中で男女共同参画の意識は高くなっていると感じているが、アンケートの回答率が低いことを残念に思う。
- ・調査方法について、対象者数を人口比率で算出するのではなく、特定の層の対象者数を増やす手法などを用いてはどうか。男女共同参画の取組みの渦中にある若年層の回答が増加するような対応をしてほしい。

(事務局)

- ・検討させていただく。

(委員)

- ・若年層は夫婦共に子育てをする家庭が多く、その延長で介護も共に参加すると思われる。
- ・現在、介護をしている世代については、「介護は女性がするもの」という意識が強いと感じるため、男性も介護に参加する意識を持

つようになるとよい。

(委員)

- ・以前は、介護は女性という風潮があったが、近年では男性が介護施設を探したりするなど、女性の負担を軽減するよう行動している人が多いように感じる。
- ・全体として、デイサービスなど第三者を活用する家庭が増えてきている。

(委員)

- ・男女共同参画の実現に向け、第三者を交えた取組みの需要が高まっていると思われる。

(委員)

- ・子育てについて、男性が子どもの世話をする姿をよく目にするようになった。
- ・問題に直面している若年層の意見を参考にしてほしい。

5 閉会